

KAMIJICHI



発注者

鳥取県

設計者

白兔・山下・塚田
特定設計業務共同企業体



青谷かみじち史跡公園

展示ガイダンス施設他 実施設計概要

基本方針・設計趣旨・建築概要

国史跡青谷上寺地遺跡の整備と活用

青谷上寺地遺跡は、鳥取県鳥取市青谷町にある弥生時代の重要な集落遺跡である。これまでの発掘調査で素晴らしい状態を保った弥生時代の多種多様な遺物や遺構が発見されており、現在、遺跡の約14haが国の史跡、約1,300点の出土品が国の重要文化財に指定されている。

史跡の整備と活用

青谷上寺地遺跡に伝わる弥生時代の歴史や文化を共有するため、国史跡妻木晩田遺跡（米子市・大山町）と共に「とっとり弥生の王国」として弥生時代の情報を発信すると共に、当時の自然や暮らしを体感・体験する環境を創出し、弥生時代の至宝とも言われる出土品を展示公開するための史跡整備を推進している。

周辺環境

展示ガイダンス施設ほかの計画地は史跡指定地の西側に隣接する。周囲を山に囲まれ、周辺には水田が広がっている。計画地の傍には勝部川があり、河川氾濫による浸水の対策を講じる必要がある。海岸線から2km以内に位置するため、塩害に対する配慮も必要である。また、計画地の北側には遺跡発見の契機となった山陰自動車道の高架があるが、目立った交通騒音等は感じられない。

建築計画の基本方針

- 重要文化財棟
 - 重要文化財を展示・収蔵する施設となるため、「文化財公開施設の計画に関する指針」に定める基準を満たすよう、構造をRC造とし、IPM（総合有害生物管理）を考慮した計画とする。
 - 浸水想定高さ（約100年に1度：現地盤+1.2m、約1,000年に1度：同+2.9m）を考慮し、収蔵庫、展示室及び機械室の床高さを設定する。
 - 重要文化財の展示・収蔵施設に求められる耐震性を満たすため、重要度係数を1.25（Ⅱ類）として計画する。
- ガイダンス棟
 - 多種多様な木製遺物が出土し、木材との親和性が高い青谷上寺地遺跡の特徴を考慮し、木造とするために様々な制限のかかる重要文化財棟と別棟で計画する。
 - 誰もが立ち入りやすいオープンスペース、イベントや体験学習での史跡公園との一体利用など、史跡公園の顔となる施設を目指し、開放性を考慮した計画とする。
- 配置
 - 史跡公園の導入部分となる施設、史跡公園との一体利用等、求められる条件を考慮した、誰もが安全に利用できる配置計画（史跡公園の整備計画と連動した配置・誰もが使いやすい駐車場・安全性に配慮した動線）とする。
- 外観
 - 重要文化財の展示・収蔵施設に求められる浸水高さ・天井高さ等の機能を満たし、かつボリュームを抑えた、周辺の景観に親和性のあるデザインとする。

敷地概要

- 建設場所 鳥取県鳥取市青谷町吉川 ほか
用途地域及び地区の指定
・青谷都市計画区域内 非線引都市計画区域
・防火地域 指定なし
・建ぺい率 70%
・容積率 400%
・その他 国史跡青谷上寺地遺跡隣接地
埋蔵文化財包蔵地
・現地盤面 標高2.83m

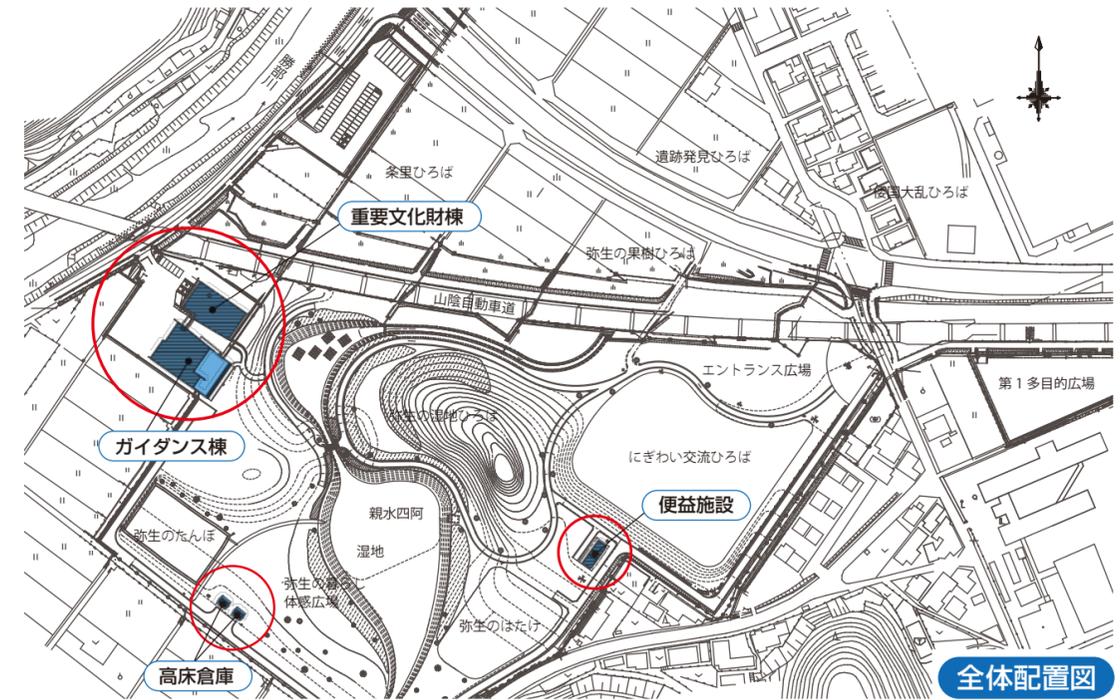
設計趣旨

- 展示ガイダンス施設等整備基本計画（令和2年3月 とっとり弥生の国推進課）を実現する建築計画として以下の3点をコンセプトとした設計を行う。
- 史跡の玄関（顔）となる配置・外観
 - 建築・展示・史跡公園とが一体となり、人々の「知的探究心」を刺激する動線
 - 地元の木を多く使用し、現代の匠の技を生かした温もりのある内装

- ユニバーサルデザイン
 - 様々な利用者や利用方法を考慮したバリアフリー計画とし、ピクトグラムや音声誘導等を適宜配置することで、誰もが使いやすい施設とする。
- 県産品等の活用
 - 様々な県産品等（県産材、CLT、県産内装材、県産塗料、和紙、伝統技能）を活用することで、鳥取県の魅力発信に繋げる。

設備計画の基本方針

- 環境配慮
 - 使用するケーブル類はエコケーブルを採用する。
- ライフサイクルコストの削減
 - 省エネルギー型の照明器具（LED照明など）を採用する。
 - 人感センサー、明るさセンサー、初期照度補正型器具の採用を検討する。
 - 節水型衛生器具や熱効率の良い空調機器などを採用する。
 - グリーン購入法適合品（トップランナー変圧器等）を採用する。
- 維持管理の向上
 - 設備更新に対応できる強電・弱電用幹線ルートを確保する。
 - 保守点検の容易なシステムを採用する。
 - 塩害対応の配管・機器類を選定する。



建物計画概要

■展示ガイダンス施設

	重要文化財棟	ガイダンス棟
用途	博物館	博物館
建築面積	668.62㎡	730.37㎡
延べ床面積	1,367.37㎡	675.00㎡
1階床面積	624.38㎡	675.00㎡
2階床面積	623.48㎡	—
3階床面積	119.51㎡	—
構造	鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）	木造
耐震安全性の分類	重要度係数 1.25（Ⅱ類） 建築非構造部材 B類 建築設備 乙類	重要度係数1.00（Ⅲ類） 建築非構造部材 B類 建築設備 乙類
主要構造部	耐火建築物	その他
最高高さ	15.18m	7.04m

■便益施設

用途	トイレ
建築面積	112.00㎡
延べ床面積	72.00㎡
1階床面積	72.00㎡
構造	木造
耐震安全性の分類	重要度係数1.00（Ⅲ類）
主要構造部	その他
最高高さ	3.56m

■高床倉庫×2棟

用途	倉庫
建築面積	16.55㎡
延べ床面積	15.01㎡
1階床面積	15.01㎡
構造	木造（一部鉄骨造）
耐震安全性の分類	重要度係数1.00（Ⅲ類）
主要構造部	その他
最高高さ	4.75m

■車いす駐車場上屋

延べ床面積	74.09㎡
構造	鉄骨造
最高高さ	3.46m

■渡り廊下

延べ床面積	20.39㎡
構造	鉄骨造
最高高さ	3.35m

展示ガイドンス施設 平面図

■全体計画

重要文化財の収蔵・展示機能をもつ「重要文化財棟」、史跡のガイドンスや体験学習機能をもつ「ガイドンス棟」の用途及び機能の異なる2棟を、中央の屋外活動スペースを中心に両側に配置し、各棟を渡り廊下で接続することにより回遊性を確保する計画とした。この屋外活動スペースを設けることにより、史跡公園への視線の抜け道が出来、建物と史跡公園の視覚的な一体感が生まれることを狙った。

■重要文化財棟

【全体】

鉄筋コンクリート造3階建とし、重要文化財の収蔵・展示に必要な耐火・耐震性能を満たす構造とした。また、温熱環境についても適切な温湿度環境を確保できるよう、収蔵庫は2重壁とし、機械空調で施設内環境を制御する「高気密高断熱・機械空調補助方式」を採用した。

加えて、IPMの観点から外部に面する出入口には風除室を設置し、害虫の侵入を抑制するよう配慮している。

【重要文化財等の収蔵・展示エリア】

収蔵庫、展示室及び機械室などの諸室は2階以上のレベルに配置することで、勝部川氾濫時に想定される水害から重要文化財を守ることが出来る計画とした。

【ロビー】

ロビーには2層の吹抜けを設け、全面ガラス張りとする事で、明るく開放的な空間を演出した。そこから続く眺望ラウンジは、史跡公園全体を眺望することが出来、展示品鑑賞の合間にくつろいでいただける空間としている。

【管理・運営エリア】

来客エリアと重複しない管理動線を確保し、展示替え及び運営が円滑に行えるよう計画した。

また、搬出入経路については、出土品の最大寸法を考慮の上、エレベーター積載量及び搬出入経路の有効幅員を決定し、収蔵品等の円滑な搬出入を可能としている。

■ガイドンス棟

【全体】

たくさんの木製品が出土している青谷上寺地遺跡との親和性を高めるため、耐火要件等のかかる重要文化財と別棟とし、木造で計画した。

併せて、新材材として注目度の高いCLT（直交集成板）を耐力壁に用いることで、環境へも配慮している。

また、重要文化財棟と別棟としたことにより、IPMを不要とすることで、史跡公園と一体的な活用を可能としている。

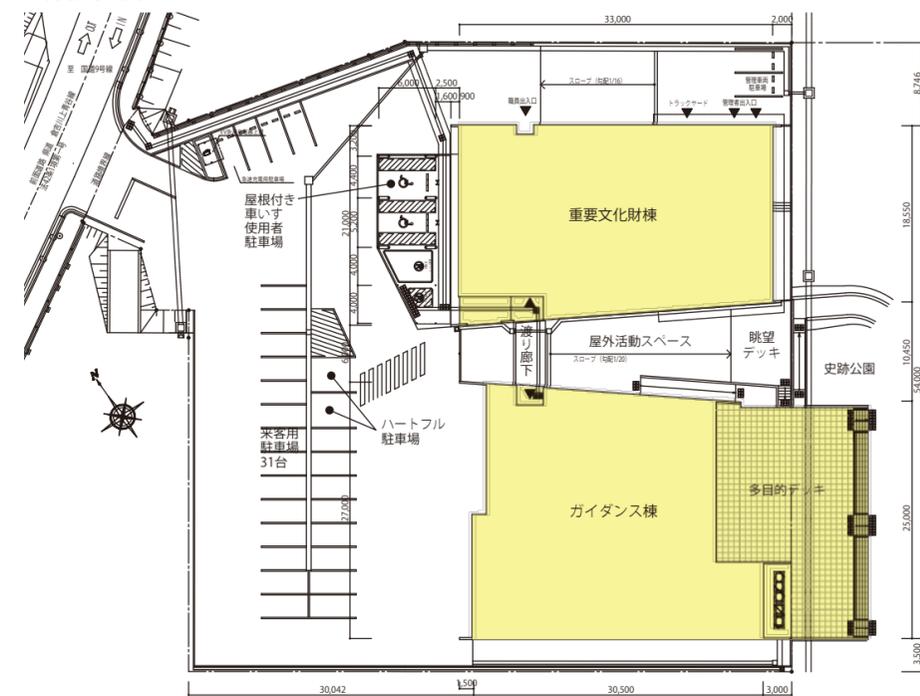
【エントランス展示室・ガイドンス展示室】

エントランス展示室は、誰もが立ち寄りやすく、外部からも視認性の高い位置に計画し、ガイドンス展示室との連続性に配慮した平面計画とした。

【体験学習室・多目的デッキ】

体験学習室は、学校教育や地域活動との連携の場として、利用想定人数を考慮した十分な広さを確保した。また、多目的デッキへの段差を極力なくし、開口部を多く設けることで展示室や史跡公園との一体的な利用に配慮した。併せて、体験学習室に可動間仕切壁を設けることで、多様な使い方を可能としている。

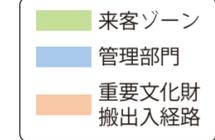
全体配置図



3階



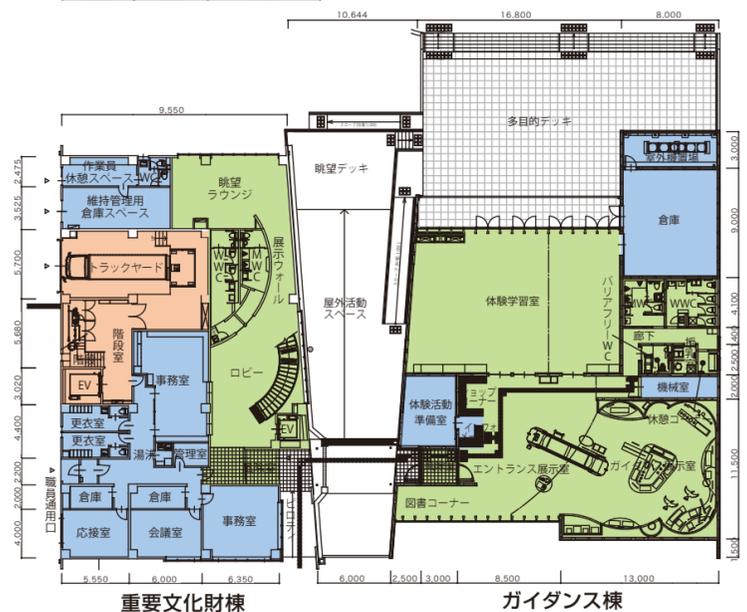
凡例



2階

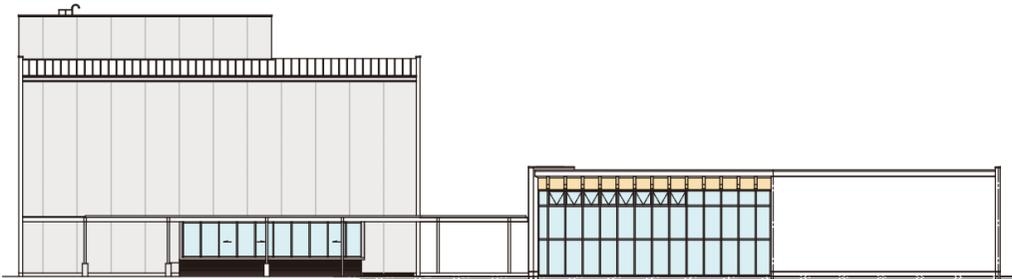


1階

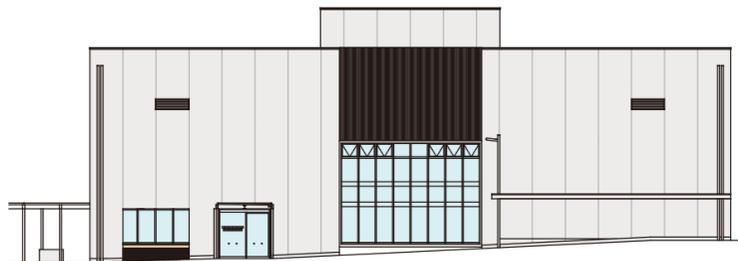




東側立面図



西側立面図



屋外活動スペースから見た重要文化財棟南側立面図



屋外活動スペースから見たガイダンス棟北側立面図

■立面計画

重要文化財棟は、自然豊かな周辺景観に配慮し、鉄筋コンクリート造の素材感を生かしたコンクリート打放しを基調とした外観とした。一方、ガイダンス棟は小屋梁及び軒天等の木部を現しとすることで、木造らしい外観としている。

また、構造・ボリュームの異なる各棟の一体感を出すため、水平ライン強調する軒を設置している。



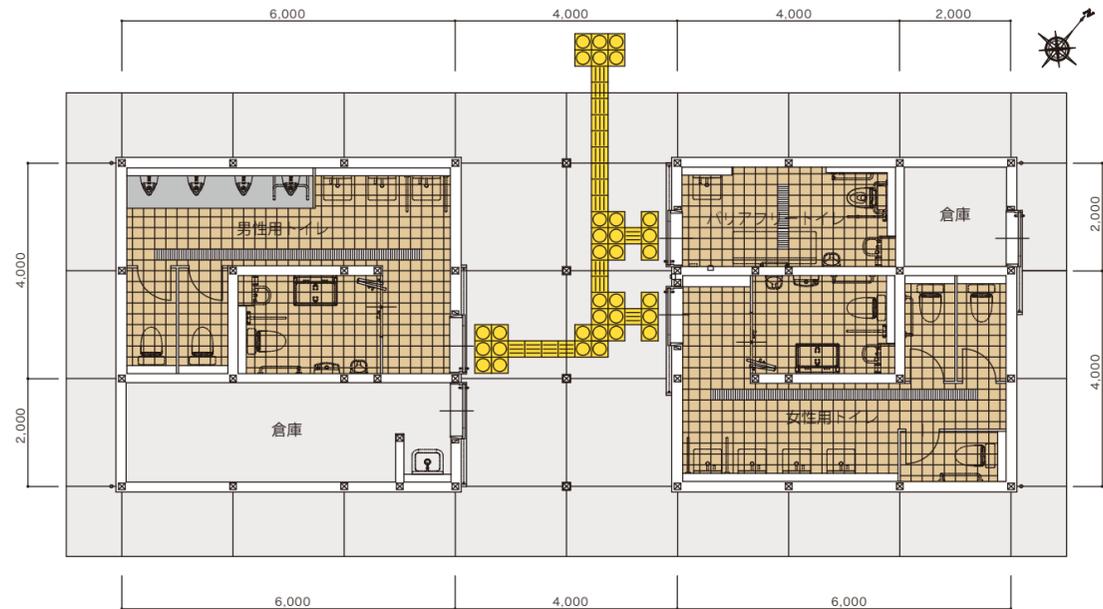
重要文化財棟ロビー



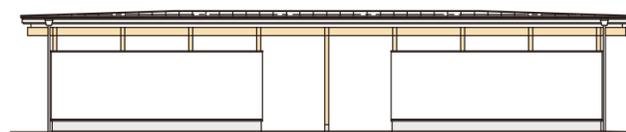
ガイダンス棟体験学習室

■便益施設

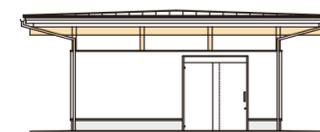
木造平屋建てとし、屋根を緩勾配とすることにより極力ボリュームを抑えた計画とした。バリアフリートイレの他に、男性用・女性用各トイレ内に大きめのブースを設け、様々な方の利用に配慮している。



平面図



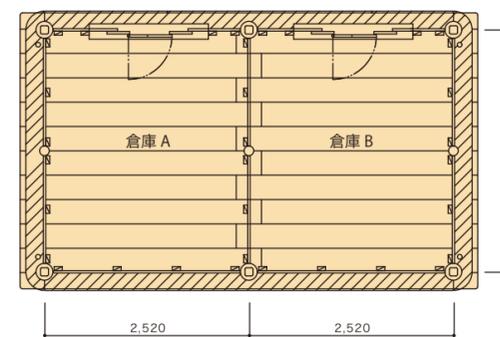
北側立面図



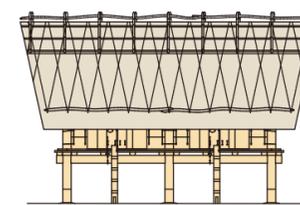
東側立面図

■高床倉庫

復元建物ではなく、建築基準法に適合する建物として計画。耐久性を考慮し、躯体の一部に鉄骨を用いているが、極力当時の面影を再現した仕様としている。



平面図



北側立面図



東側立面図